



## 激減する「野球人口」 高校野球は5年連続で減少！

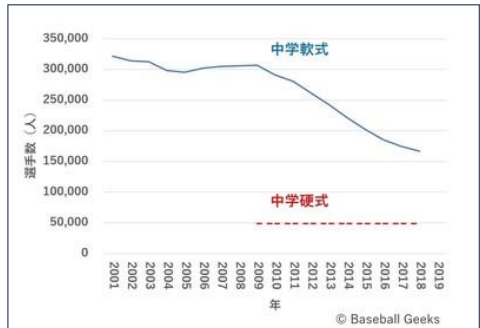
野球人口の減少に関する指摘は年々多くなっている。野球選手が減少している理由は、野球に触れる機会が減ったことや野球チームに入ることに抵抗を感じる方が増えたことが挙げられる。

今回は、小学生から成人の野球人口を包括的に分析し、日本の野球人口現状を示していく。また、野球が選ばれなくなってきた社会的背景についても考察していきたい。



図をみると、2008年以降、小学生が所属する学童野球のチーム数は減少の一途を辿っている。チーム数は1万5千(2008年)から1万1千(2018年)に減少している。チーム数の減少は、野球人口減と直結している。野球人口減の理由は、家庭内で野球をやることの理解が得られなくなったということである。お父さんの草野球について行き、野球遊びや野球の楽しさを体感した子どもの数も減っているのではないか。

中学校の部活動で行われている軟式野球（以下、中学軟式）の部員数は、2010年以降に急激に減少している。図をみると、2001年から2018年までの18年間で半減しているのがわかる。これらの結果は、中学軟式の部員数減少は少子化のスピードを大きく上回っていること、少子化だけでは野球人口の減少を説明できないことを示している。



一方、シニアリーグなどの中学生の硬式野球（以下、中学硬式）では、2010年以降、選手数が4.9万人前後で推移しており、ほとんど変化がないという。学童野球チーム数が減少しているのだから、軟式、硬式ともに野球人口が減少していてもおかしくない。しかし、選手数の経年変化は軟式と硬式とで異なる。両者の違いは、所属チームを選べるかどうかにある。選手数が減っていない硬式野球チームの多くは、学校外の活動であり、自分に合った競技レベル、指導者、練習環境のチームを選択できる。一方、学校の部活動では、野球をやるかどうかの選択はできても、所属チームを選ぶことができない。

高校硬式の部員数は、2001年以降増加し続け、2014年に17万人で最大になった。その後は5年連続で急減し、2019年には14万人（5年間で10%減）であった。学童や中学軟式の選手数減少が高校硬式にも表れ始めた可能性がある。

こうしてデータを並べてみると、野球人口の減少は凄まじいスピードで進んでいる。これは、単に少子化の影響だけでなく、文化や価値観の変化に野球界が対応できなかったことが原因であろう。野球界に突き付けられた課題は大きい。